

「自立の町 輝く金ケ崎」を目指して

金ケ崎町長
高橋 由一



金ケ崎町は、奥羽山系焼石連邦の北端に位置する駒ヶ岳の裾野に広がる扇状地に形成された町。町の西方は森林地帯と雄大な牧歌的景観が広がる丘陵地帯になっています。その東方の平野部には田園地帯が広がっています。町の東端には市街地が形成され、国道・高速道・在来鉄道・新幹線が南北に走っています。

山岳部から平野部までの間の 1300 mにおよぶ高低差は、様々な気象と風土を生み出し、多様な産業と文化を育んできました。

近年の地方分権の推進や逼迫する地方財政のなかにあって、金ケ崎町は、この基盤を土台として、「ガーデンシティ金ケ崎」そして「自立の町 輝く金ケ崎」を将来像に据えて、産業（農業・工業・商業）の共生や自然と開発の調和など、さまざまな関係における共生と調和を図り、さらなる躍進を目指して、まちづくりを進めています。

○快適なまち

住宅施策の基本理念を「豊かさ・魅力・個性あるまちづくり」として、誰もが安心して永住できるまちづくりを目指し、快適な住環境づくりに努めています。



1. 湖水パーク改断（住宅団地） 2. 金ケ崎駅前 3. 4車線町道（南花沢・前野線） 4. 町営荒巻住宅

○健康で安心できるまち

まちづくりにおいて、最も大切な住民の健康づくりと、生涯にわたって安心して暮らすための支えとなる地域福祉の充実に向けた取り組みを行っています。

食育

町内の小学校、幼稚園や保育園では、種まきから収穫までの様々な農業体験を通じた食についての取り組みが行なわれています。小中学校では、各家庭において、自分の弁当づくりや弁当詰めを通じて、家族とともに食の大切さを考えてもらおうと、毎月第4

月曜日を「弁当の日」と定めています。各地域においても、田植えから稲刈りまで、地域の農家の方に教えてもらいながら、子供会と保護者も含め農作業体験に取り組んでいます。

町には、地産地消を実践できる豊かな大地があります。安全、安心そして何よりおいしい「食」が、ここにはあります。「食育」という視点で見たとき、町内には誇るべき多くの活動や、食を育てる土壌、施設が豊富にあります。



介護予防

「元気老人をつくる」ということを基本に据えて、保健・福祉・医療の各分野と連携を図り、健康と安心づくりを推進しています。そして、運動機能向上、栄養改善や口腔機能の向上など、介護予防に積極的に取り組んでいます。

介護予防拠点施設として「金ケ崎温泉駒子の湯」を整備し、「貯筋講座」、「健脚講座」、「介護予防講座」など様々な介護予防事業を展開しています。金ケ崎町には、温泉やスポーツセンターなど充実した設備があります。この特性を活かし、健康長寿の町、元気な町をつくらうとしています。



子育て支援

金ケ崎町では、父母等の保護者が子育てに最も重要な責任を有するという認識の下に、地域社会が子育てを支援していくことが重要と考え、「家族すこやか 地域が 育むまち」を基本理念として、「金ケ崎子ども育成支援行動計画」を策定して、子育てを社会全体で支えられる地域社会、安心して子どもを産み育てられ、子どもが健やかに育っていける環境を目指して、様々な子育て支援サービスを展開しています。



〇活力のあるまち

自然環境との調和を図りつつ、町土や各産業の特性を活かし、各産業が共生できる取り組みを通じて、活力ある町づくりをしています。

農業

農業は、金ケ崎町の基幹産業です。米・畜産・野菜の複合経営等により、効率的で安定的な農業経営を目指し、安全で品質の高い農畜産物づくりに取り組み、米と牛肉のブランド化を推進しています。

町の西には、牧野が広がり、酪農も盛んです。また全国有数の規模を誇る茅場があり、茅の生産に取組んでいます。



工業

金ケ崎町が有する「岩手中部（金ケ崎）工業団地」は、岩手県勢発展計画の中心的事業として、県民の所得向上、雇用機会の拡大のために整備され、総面積が310.5haと岩手県内最大の面積を誇り、集積回路、医薬品、東北発の自動車組立工場など、有力企業が立地しています。

この工業団地により、金ケ崎町の工業出荷額は県内市町村でトップを占めており、今や県内ばかりではなく東北地方まで、地域経済の活性化や雇用機会の創出に影響を与えています。



商業

金ケ崎町の商業機能は、国道4号線沿いに集積しています。近年の大型ショッピングセンター等の出店により、町民にとっては、商業施設が充実して、便利になっています。

金ケ崎駅前や国道4号線沿いにまだまだ遊休地や遊休施設など、商業集積ができる土地があります。

また、県内最大の工業団地があり、高速道路が走り、そのインターチェンジが町をはさむ形で南北にあり、交通の利便性から、優れた物流の拠点としての魅力もあります。



○文化の薫るまち

活力ある地域社会をつくりあげるため、「生涯を通じた人づくり」を基本とし、教育と文化を大切にしまちづくり、町内外の人々との交流を通じて、個性を育み、文化の薫るまちづくりをしています。

生涯教育

金ケ崎町は、昭和 54 年に全国に先がけて「生涯教育の町」を宣言しました。以来、人間らしい生活の実現を生涯教育に求め、今よりも「よい人間になりたい」「豊かな生活をしたい」「住みよい町にしたい」という願いをかなえるために、「いつでも、どこでも、だれでも、ひとりいち学習、いち活動、いちスポーツ、いち工夫、いち奉仕」をスローガンに、町民に生涯各時期に応じた学習機会、活動機会を提供しています。

学習・活動支援

学習や活動の機会は、町民の多様化・高度化する学習要望を受けながら、町民総合大学やはばひろく各種講座や学級を開設しています。



わくわく少年クラブ



演劇入門講座

生涯スポーツ

誰もが気軽にスポーツを楽しめるよう、場の提供をし、総合型地域スポーツクラブを支援しています。また、町全体や地区ごとにスポーツ大会や運動会が行われています。



町内一周駅伝



運動会

国際交流

金ケ崎町は次の3つの都市と交流しています。

中国・長春市 アメリカ・アマースト町 ドイツ・ライネフェルデヴォアビス市

長春市とは、職員の相互派遣、経済・技術交流、高校生のスポーツ交流団の相互派遣、マラソンランナー・太極拳指導者・京劇団・雑技団等の招聘など、さまざまな交流を行ってきました。アマースト町には、毎年中学生海外研修団を派遣しています。アマースト町の中学生研修も受入れています。

文化交流が中心になっており、大きなイベントとしては、アマースト大学聖歌隊やアマースト町民ミュージカル公演などを行いました。

歴史遺産

保存地区は、近世期において仙台藩（伊達領）と盛岡藩（南部領）の藩境に位置し、仙台藩最北の防衛拠点として金ケ崎要害が置かれました。

金ケ崎要害は北上川と胆沢川の合流地点の舌状台地上にあります。北上川に沿って要害を取り囲むように武家地、南北に走る奥州街道の南北両端に足軽屋敷、中央部に町人地が形成され、要害は樹木帯によって周囲の河川や田園地帯とは明確に区画されています。武家地内の小路はほぼ江戸時代のもので、鉤形や樹形、弓形の道路を組み合わせ城下町特有の形態を示しています。各屋敷地はサワラヒバの生垣で区画され、北西方向にはエグネと呼ぶスギの屋敷林をはじめとして、様々な樹木が植えられています。武家住宅は寄棟造茅葺の建物で、小路に沿った生垣とその背後の屋敷林の合間から武家屋敷の大きな屋根が見える景観は、当地方の武家地の典型的な姿を良く伝えています。



1. 旧大沼家侍住宅 2. 大松沢家正門 3. 細目家庭園 4. 添田家住宅